

◇ 新刊紹介

岡山東村史 歴史編 野村英一編

昭和五十五年十一月 岡山公民館発行

A5版 七四二頁 図版十一枚

岡山地区の歴史を記述したものに、明治時代に吉田郡誌、戦後には福井市史がある。しかし旧吉田郡あるいは現在の福井市は、郷土というには広過ぎる。いったい郷土とはどの範囲の地域をさすのであろうか。われわれが子どものころから自分の足で歩き回り、自分の目でいつもながめていて、土地の風景も人の顔もみななじみであるという範囲に、郷土という語の意味を限定すれば、戦前の旧町村、現在でいえば小学校の校区が郷土の基本的単位であるといつてよい。

今回上梓のはこびとなった岡山東村史は、郷土の基本的単位である岡山地区の往昔を調べ、住民の生活のルーツをたずねたものである。中世以前については原資料そのものが乏しいが、藩政期以後については豊富な内容が盛られている。しかもこの書の編さんは野村英一氏をはじめ郷土の人自身によってなされ

ている。中央の学者の手を借りなくてもこれだけりっぱな仕事ができることを、つまり史学会の一つの新しい動向を現実に天下に示している。
(杉原丈夫)